若者を考える、若者と考える

YOUTH SERVICE

VOL.41

若者と支援者をつなぐ広報誌

2 ぷちメッセージ ほか

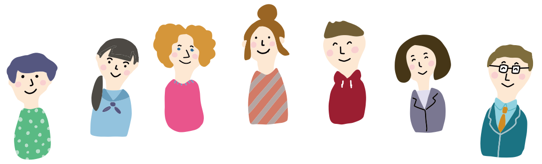
3 特集記事
海外のユースセンターを見に行こう!

12 TOPICS
新しい取り組み
どこでもユースセンターきょうと

14 ユースかわら版

アンケート集めています!
広報誌へのご意見・ご感想お待ちしております。

YOUTHSERVICE VOL.41
2024年1月25日発行



特集

海外のユースセンターを見に行こう！

今号では、海外のユースワーク・ユースセンターについてご紹介します。

世界では、若者に対してどのようなユースワークを行い、どんなユースワーカーが活躍しているのでしょうか。

今年度、当協会が科学研究や視察対応などで交流、繋がりのある、イギリス・フィンランド・韓国のユースセンターにご協力いただき、若者へのアプローチ・事業内容・ユースワーカーの想いなどなど、国を越えて、共通する「ユースセンターの意義」をお届けします。

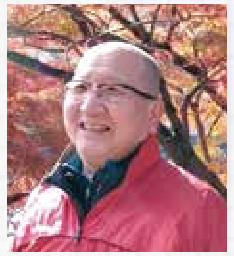
P10・11 寄稿

『「ユースワーク」を読み解く視点』

両角 達平（日本福祉大学）

ぷちメッセージ

若者と地域



下京青少年活動センター 運営協力会
京都市下京区社会福祉協議会
会長
松山　健治

私とユースサービス協会との出会いは、2001年、元格致小学校にユースサービス協会の事業所である「ユーススクエア高辻」が置かれたことに始まります。

当時、私は、格致学区の少年補導部長から社会福祉協議会の会長を担う時期で、地域の子どもたち保護者から高齢者を中心とした取り組みまで幅広くかかわりを持つ時期でした。

学区の夏祭りや少年補導の行事に対して「ユーススクエア高辻」を通して、学生ボランティアの力をお借りする道が拓け、若者の豊かな発想力やエネルギーを感じながら一緒に活動できたことが、地域の貴重な財産になっていると感じています。

今年度、下京区社会福祉協議会の会長となり、下京青少年活動センター運営協力会の一員として再びフレッシュな皆さんとご一緒できることを、本当にうれしく思っています。コロナ禍を経て、地域のつながりの希薄化や、若者も含めあらゆる世代での孤独孤立が課題となっています。ほっとできる空間、たのしい時間を共有することで、同じ地域に暮らすだれもが、世代や属性も超えて緩やかにつながっていけるよう、皆さんとともに歩みを進めたいと思います。

YOUTH VOICE

ユースセンターとわたし

田中　柊奈（大学4回生）

私は、東山青少年活動センター事業「東山アートスペース」と「からだではなそう」という障がいのある方対象のプログラムのボランティア活動をしています。

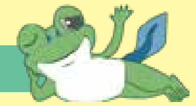
アートスペースのボランティアを始めた頃、ナビゲーターや他のボランティアが「今日のテーマ気分じゃないな～って思ったら、違うことで考えてみるのもありだよ!」と声掛けをしたり、アルミホイルを使った創作の際には「感触が嫌だったら別の素材使おう」と話したりしていたことが、私の中では衝撃でした。実際、動物の創作がテーマの回でも、動物づくりはそこそこにして自分の好きなモチーフを中心に作っている参加者もいれば、用意されたもの以外にも自分から積極的に素材を探しにいく参加者もいて、アートスペースが「何かものを生み出す」「皆がテーマ通りにつくる」ことではなく、「この空間で創ることが楽しい、好き、と思ってもらえる」ことを大切にしたプログラムであることを知りました。

そんな印象からスタートしたボランティア活動が、気づけば3期連続での参加となり、参加者やボランティア同士の関わりの中で、自由な創作の面白さや交流の楽しさが、着実に今の自分の活動に活きていると感じています。

公益財団法人　京都市ユースサービス協会は、京都市内7カ所の青少年活動センターと、子ども・若者総合相談窓口、生活困窮世帯の学習支援事業、社会的養護自立支援事業の一体的かつ効果的な運営を指定管理者として受託しています。青少年活動センターは、それぞれの施設・設備に特徴があって、様々な事業活動をしています。また、厚生労働省から若者サポートステーションの運営を受託し、若者の社会的自立や職業的自立に向けた支援も行っています。

インスタ フォローしてね！

ユースサービスの理念



「ユースサービス」とは、子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援することです。子どもたちが家庭、学校、地域社会、職場などを通じて成長し、自分自身の興味や関心を高める過程で、必要に応じて助言や情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。そして、青少年自身の積極参加によって、青少年と協働の豊かな地域社会を創り出すことを目的としています。